

美幌版総合戦略に係る平成30年度実績及び平成31年度予算・指標設定

基本戦略1

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果		
				後年度	予算額															
みらい農業センター	1	新規就農者確保・育成等総合支援事業 (農業経営者育成事業)	【①新規就農研修生の育成】農業機械の操作技術向上、栽培技術・知識の習得、営農・資金計画の樹立に向けた実践的な研修を実施するとともに経営継承方式による就農を円滑に進めるための総合的な支援体制を構築する。 【②農業後継者の育成】冬期農業講座を開催し、農業技術力・経営能力の向上を図る。	H29年度実績額	5,053,027					5,053,027	指標①	新規就農研修生	1	戸	H31.3	1	0	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)		
				H30年度実績額	256,945						256,945	指標③								
				H31年度予算額	308,000				295,000	13,000	指標①	新規就農研修生	2	戸	R2.3					
											指標②	冬期農業講座受講者数	100	名(延べ)	R2.3					
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について							
							事業の評価			外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由							
	①経営継承方式による新規就農は、資産一括譲渡により新規就農者、離農者双方にメリットのある仕組みであり、経営基盤を持たない新規就農者の経営安定化が早期に図られる手法である。当年度は経営継承案件2件を募集し、次年度からの新規就農研修生2組が研修することが決定した。②本年度における冬期農業講座は講座内容の充実化が図られたことにより、受講者数で延べ88名となり概ね指標値に達し知識向上が図られたことから事業効果は高い。 指標値を下回った理由 ①経営継承方式による出し手の農家がなかった。 ②農家子弟の受講は目標値を超えていたが、一般農家の申し込みが少なかったため指標値を上回ることができなかった。			報償費 15,000円 需用費 61,945円 負担金 180,000円 合 計 256,945円			新規就農研修生 0名 冬期農業講座受講者数 延べ88名			事業の継続			現在進行形の事業の現状及び実績値から本事業が効果的であるため事業を継続し、地域農業の担い手確保及び人材育成を更に強化する。							

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
みらい農業センター	2	新規就農者確保・育成等総合支援事業 (農家青年配偶者対策事業)	農業センター実習と農家実習を自由に組合せできる仕組みの農業体験実習生受入事業は担い手対策協議会を通じて実施し、農業に興味を持った女性実習生を積極的に受入する中で、農業体験を通した農家青年との交流の場を自然な形で設定し、農家青年の成婚率向上を図る。	H29年度実績額	9,796,896					9,796,896	指標①	農業体験実習生	3	名	H31.3	3	4	指標値を達成し 事業効果があつた
				H30年度実績額	5,567,505					5,567,505	指標③							
				H31年度予算額	4,854,000				1,812,000	3,042,000	指標①	農業体験実習生	3	名	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
							事業の評価		外部有識者からの意見		今後の方針		今後の方針の理由					
	農業体験実習生4名を受入し、農業センターでの実習に加えて農家宅での農家実習も実施した。地域農家青年との交際には発展しなかったが、地域農業者との交流の場を設定することができた。平成27年度、実習生のうち1名が実習終了後、本町へ移住を果たし、実習中に親交のあった農家青年との交際に発展し、平成29年度に成婚に至った例から鑑みても事業の継続化により、効果が現れることから事業効果は高い。			社会保険料 206,280円 臨時職員賃金 1,360,320円 人夫賃等 447,950円 需要費 1,701,510円 役務費 319,618円 委託料 154,782円 使用料 14,545円 負担金 1,362,500円 合 計 5,567,505円			農業体験実習生 4名		事業の継続			実績値から本事業が効果的であるため事業を継続し、農業体験の場を提供する中で農家青年との交流の機会を設定し、成婚率向上を図る。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④	⑤				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業前の実績値		本事業終了後における実績値						
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果		
みらい農業センター	3	新規就農者確保・育成等総合支援事業 (農業振興事業)	独自性と有益性を兼ね備えた新規作物や新たな栽培技術を地域へ提案、普及するため、各種試験栽培に取り組み、研究・調査を実施する。また、新たな特産品として知名度が高まりつつある「伏せ込みアスパラガス栽培」については、早期出荷と高収化の両立化を図る難題に取り組んでおり、引き続き研究・調査を継続するとともに関係機関と連携し、生産者戸数増加に向けた普及推進を図る。	H29年度実績額	10,338,810					10,338,810	指標①	伏せ込みアスパラガス栽培戸数	5	戸	H31.3	7	5	指標値を達成し事業効果があった	
				H30年度実績額	10,954,076						10,954,076	指標③							
				H31年度予算額	11,033,000				8,705,000	2,328,000	指標①	伏せ込みアスパラガス栽培戸数	5	戸	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
							事業の評価			外部有識者からの意見			今後の方針			今後の方針の理由			
	5戸の生産者が栽培する日本唯一の11月初旬出荷のアスパラガス冬季栽培は、その希少価値が高く評価され、破格の価格で流通している。本町農業は大規模畑作経営が主体の地域であり元来、施設園芸作物は普及しにくい環境の中、本町農業史上初の冬季野菜生産者となる5戸は異例であり、道内でも数少ない冬期農業収益策の実践産地であるため、事業効果は高い。また、美幌高校でも研究課題として同栽培に取り組んでおり昨年から、みらい農業センターの仲介によりJA出荷されている。			社会保険料 429,053円 嘱託職員賃金 2,517,600円 人夫賃等 308,700円 旅費 44,000円 需用費 5,917,562円 役務費 657,606円 委託料 11,304円 借上料 44,395円 原材料 119,630円 備品 756,000円 負担金 112,826円 公課費 35,400円 合 計 10,954,076円			伏せ込みアスパラガス栽培戸数 5戸						事業の継続			実績値から本事業が効果的であるため事業を継続し、道内最先端の冬季生産アスパラガス栽培技術の研究に取り組み、更なるブランド力向上を下支えする。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)							
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
農政担当	4	地域しごと支援事業	本町においても農業後継者不足が問題となっており、農業後継者確保が課題となっていることから、経営継承できる農家子弟と農外から新規参入する新規就農者に対し、就農支援を行うことにより、農業後継者確保と本町農業の持続的発展を図る。	H29年度実績額	9,002,104		1,500,000		3,675,822	3,826,282	指標①	新規就農者数 新規農業従事者数	5	人	H31.3	8	5	指標値を達成し 事業効果があった
				H30年度実績額	12,385,521		3,000,000		4,597,915	4,787,606	指標③							
				H31年度予算額	10,208,000		2,250,000		3,883,000	4,075,000	指標①	新規就農者数 新規農業従事者数	5	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		新規就農者や新規農業従事者に対し就農支援を行うことにより、農業後継者を確保することが出来た。	(1) 就農奨励補助金 :9,195,830円 (2) 農用地賃貸料補助金: 189,691円 (3) 青年就農給付金 :3,000,000円			○新規就農者 1名 ○新規農業従事者 4名 (内訳) 学卒 4名					事業の継続	新規就農者や新規農業従事者等を確保し、本町農業の持続的な発展を図るため。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
森林 担当	5	森林認証材活用促進事業	付加価値促進を図るために森林認証材買取時に上乘せを行い、認証の普及促進を図る。(補助率1/2、事業者の連携が条件、上限250万円)	H29年度 実績額	726,684					726,684	指標①	認証材の生産量	5,800	m3	H31.3	1,687	4,718	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度 実績額	2,117,872					2,117,872	指標③							
				H31年度 予算額	2,500,000					2,500,000	指標①	認証材の生産量	5,800	m3	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について			
								事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由						
森林認証材を、住宅供給のため、計画的に使用量調整を行い産出したため、指標値を下回った。なお、認証材住宅は着実に普及している。			製材:1,923,550円 ダンネージ材:60,426円 パルプ材:133,896円			製材:3,847,100m3 ダンネージ材:201,420m3 パルプ材:669,480m3 皆伐:3契約					事業の継続	実績値により、本事業が効果的であったため、継続的な取組をすることで、森林認証の普及促進を図って行きます。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値		⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値		本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果		
森林 担当	6	美幌町産材活用促進事業	美幌町産FSC森林認証材の利用促進により、森林資源の地産地消の推進・町内経済の活性化・町内住宅の良質な住環境整備を図る。	H29年度 実績額	6,880,000	3,440,000				3,440,000	指標①	建築住宅戸数	15	棟	H31.3	7	8	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
											指標②	森林認証材使用量	275	m3	H31.3	173	149		
				H30年度 実績額	6,200,000	3,100,000				3,100,000	指標③								
				H31年度 予算額	17,400,000	7,830,000				9,570,000	指標①	建築住宅戸数	15	棟	R2.3				
											指標②	森林認証材使用量	275	m3	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由						
美幌町全体の住宅建築戸数が減少しているが、その中でも美幌町内で建築された森林認証材使用戸数は55%の認証材住宅で使用されているため、事業効果はあった。			補助金 6,200,000円			認証材使用量: 148.6572m3 町内工務店実施率:55% (全体 32戸÷町内 21戸= 65.6% 内認証材使用戸数 8戸)						事業の継続	実績値により、本事業が効果的であったため、対象拡充を図り、美幌町産FSC森林認証材の利用促進及び町内住宅の良質な住環境整備を更に発展させる。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額														
森林 担当	7	森林認証材ブランド化推進事業	美幌町産FSC森林認証材を使用して、価値の高い建材等にするため、新たな乾燥技術(コアドライ)を取り入れ、FSC認証材の地域ブランド化を目指し、販路開拓及び町内外へ普及・PRを図る。また、美幌町産FSC森林認証材を使用した新製品の開発を行う。	H29年度 実績額	1,000,000					1,000,000	指標①	町内外へのPR活動	4	回	H31.3	10 (新開発製品数: H29指標)	3	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
				H30年度 実績額	120,960						120,960	指標③							
				H31年度 予算額	200,000						200,000	指標①	町内外へのPR活動	3	回	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料: 〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について							
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針		今後の方針の理由					
		積極的にイベント等に参加しPR活動を行ったが、機会が少なく指標を下回った。多分野でのイベント参加により認証材のPRに貢献できた。		イベント出店費用(3回): 120,960円			出店イベント ・山の日(びほろ夏祭り) ・石上車輛リサイクル祭り(恵庭市) ・みどりの村ふれあい祭り						事業の継続	FSC認証コアドライ材を町内外の新築住宅へ普及させ地域循環を図っていくとともに、町内外で新製品のPR活動を行い、普及促進を図る。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業前の実績値	本事業終了後における実績値		
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
森 林 担 当	8	はじめての木づかい事業	1歳を迎えるお子さん及び新1年生を迎えるお子さんを対象に美幌町産FSC森林認証材を使用した木製品をプレゼントすることで、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」感情豊かな心を育む木育活動を推進する。	H29年度 実績額	583,200					583,200	指標①	木製品贈呈数(1歳及び新1年生の人数)	100	%	H31.3	108 (木製品贈呈数:H29指標)	100	指標値を達成し 事業効果があっ た
											指標②							
				H30年度 実績額	817,200					817,200	指標③							
				H31年度 予算額	858,000					858,000	指標①	木製品贈呈数(1歳及び新1年生の人数)	100	%	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について		
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
		対象者に変喜ばれ、好評を得ており、木育活動の推進が図られているため事業効果は高い。	消耗品費 817,200円 内訳:積み木セット 19コ 車バスルセット 14コ 魚釣りセット 18コ お椀セット 8コ 積み木(100ピース) 5コ もっくん 26コ シーソー 5コ ベンチ 6コ 計101個			1歳を迎える子ども 101人 新1年生 149人						事業の継続	本事業を通して木育活動を推進しつつ、新商品開発を視野に入れ、美幌町産森林認証材で作られた木製品を発展させる。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		指標値	単位	目標年月	本事業前の実績値	本事業終了後における実績値	事業効果	
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果		
森林 担当	9	林業館管理事業	美幌林業館きてらす(美幌駅併設)の維持管理を行う。	H29年度 実績額	3,603,993					3,603,993	指標①	来館者数	27,000	人	H31.3	23,805	22,043	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
				H30年度 実績額	3,494,980					3,494,980	指標②								
											指標③								
				H31年度 予算額	3,694,000					3,694,000	指標①	来館者数	25,000	人	R2.3				
森林 担当	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
										事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
	きてらすオープンから3年半が経過し、近隣市町村での木育施設充実等により利用者数が減少しているが、依然町外からの利用者が半数を占めている。			施設管理委託料 3,294,980円 「きてらす」維持管理用 消耗品 200,000円			平成30年度来館者数 22,043人						事業の継続	実績値は下がっているが、来場者数は多く、非常に効果的であった。今後は来館者の把握及びニーズを収集し、より安心安全な木育広場を提供できるよう努める。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④	⑤				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値					
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果		
観光担当	10	地域特産品開発支援事業【H30～掲載】	美幌町の農畜産物及び農畜産物加工品等を活用した特産品(試作品)開発や販路開拓(拡大)を行う取組への補助[補助率:人件費分2/3、事業費分10/10](平成27年度) 28年度からは27年度の事業実績を踏まえ、発展させるため、地域団体を含めた制度設計を行い、29年度からは「地域特産品開発支援事業」を町が担当し、「びほろブランド認証制度」を地域団体が担うことで、両者が車の両輪となって特産品の開発及び販路拡大に努める。	H29年度実績額							指標①	補助件数	2	件	R1.3	—	1	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
				H30年度実績額	500,000					500,000	指標③								
				H31年度予算額	1,500,000					1,500,000	指標①	補助件数	4	件	R2.3				
		⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
								事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由							
		実績は1件だったものの、新商品の開発につながった。次年度に向けての問い合わせも複数あり、今後の事業拡大が見込める。 指標値を下回った理由としては、2件の申請があり、交付決定前に1件取り下げとなったため。		補助金 500,000円 ※新規 500千円×1件	合同会社 びほろ笑顔プロジェクト 「美幌とまボン酢」の開発					事業内容を見直し発展させる	特産品の新規開発に加え、改良も対象にしてほしいとの要望が多いことから、制度の見直しを検討する。								

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④	⑤			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)			本事業前の実績値	本事業終了後における実績値			
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
観光 担当	11	観光振興事業	観光入込客数のさらなる増加のため、各関係団体との連携を図り、美幌町の個性や特色を活かした観光振興施策を展開し魅力ある観光地づくりを実施するとともに、さらなる情報発信を図る。 29年度は国の事業である「阿寒国立公園満喫プロジェクト」において、国・道・町が連携しながら観光客の更なる集客に向けて美幌峠園地の整備等を図る。	H29年度 実績額	3,617,965					3,617,965	指標①	観光入込客数	810,000	人	R2.3	726,600	622,064	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度 実績額	2,664,333					2,664,333	指標③							
				H31年度 予算額	5,029,000					5,029,000	指標①	観光入込客数	800,000	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
						指標値に対するH30実績値の内容			事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
北海道胆振東部地震の影響から、一時的に観光客が激減したことによって、大きく指標を下回った。しかし、町内では、平成29年度に美幌町観光まちづくり協議会が設立され、新たな展開が進んでいること、美幌観光物産協会が中心となり進められている屈斜路外輪山トレイルルートの開発も着実に進展しており、新たな取り組みが進められている。			PR報償費 13,591円 観光物産宣伝研修報償費 445,993円 旅費 171,500円 印刷製本費(パンフレット・ポスター)430,920円 広告料 772,800円 協議会等負担金 778,500円 消耗品等 51,029円			観光入込客数:622,064人						事業内容を見直し発展させる	美幌町観光まちづくり協議会や観光物産協会と連携し、事業を展開していく。特に体験観光メニューの事業化を進める。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④	⑤		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業前の実績値	本事業終了後における実績値		
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
観光 担当	12	空港交通利便性向上事業	女満別空港発、美幌駅経由美幌峠行きバスについて、継続運行を図るとともに利用促進に向けて情報発信に努める。	H29年度実績額	756,000					756,000	指標①	利用者	200	人	R2.3	341	192	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度実績額	600,000					600,000	指標③							
				H31年度予算額	600,000					600,000	指標①	利用者	200	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
										事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由				
		平成30年度は、1往復／日(前年度2往復／日)となったため、利用者は半減した。目標値の達成はできなかったものの、観光シーズンに美幌峠へ向かう観光客の足を確保できたことは、一定の効果があったものと思われる。		バス運行維持負担金 600,000円 (株)阿寒バス(株)			8月1日～9月30日(61日間)、 1日1往復の利用者数						事業の継続	関係機関と協議し、周知方法など改善しつつ、さらにたくさんの方が利用しやすいよう検討する。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
広報 担当	13	まちのセールスマン事業	美幌町の景観や公共施設、特産品などを掲載したミニPR紙を作成し、美幌町民が町外・道外で名刺等を配る際に活用してもらい、町全体で美幌町のPRを図る。	H29年度 実績額	340,200					340,200	指標①	町民配布数	10,000	枚	H31.3	4,194	4,390	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
				H30年度 実績額	477,180					477,180	指標②							
											指標③							
				H31年度 予算額	650,600					650,600	指標①	町民配布枚数	15,000	枚	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
PR名刺の活用から3年が経過し、配布数に落ち着きが見られるが、美幌中学校の生徒による修学旅行での町PR活動、デュアスロンや研修会の参加者へ配布するなど、新たな試みを行っている。また、広報を見た町外の方からの申し込みもあり、町のPRに一定の効果が見込まれる。			印刷製本費 :477,180円			平成30年度 名刺作成枚数 6,500枚 配付数 4,390枚						事業の継続	定期的にデザインの変更を行い、新聞や広報、HP等による事業周知を図る。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)							
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
政策 担当	14	広域連携交流推進事業	オホーツク15町村と東京23区(江東区)の都市部との連携により、農林水産物を通した消費地との交流・PRや地域に密着した体験観光・お試し暮らし等を通じた交流人口の増加を推進する。 また、オホーツク地域が一体となって、イメージ戦略を推進することにより、都市部への知名度向上を目指し、交流人口の増加や物産交流へとつなげていく。	H29年度 実績額	556,000				278,000	278,000	指標①	連携事業取組件数	2	件	H31.3	2	2	指標値を達成し 事業効果があつた
				H30年度 実績額	556,000				278,000	278,000	指標②							
				H31年度 予算額	556,000				278,000	278,000	指標③							
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		東京都江東区とオホーツク管内15町村が交流連携事業として、江東区での環境フェア出展、深川資料館通り商店街でのPRによりホーツクの情報発信を行うことができた。また、オホーツクの魅力を全国・全世界に広めるため、女子カーリングチーム「ロコ・ソラーレ」をアンバサダーとし、メディアを活用した様々なPRを行い、オホーツクの認知度向上やイメージアップに繋がった。	オホーツクイメージ戦略推進委員会負担金 556,000円	平成30年6月2日～3日 深川資料館通り商店街でのPR、江東区環境フェアへの出展 ロコ・ソラーレを起用したポスター、ポストカード、顔はめパネルの制作や、公式サイト及び公式Twitterを利用したPR			事業の継続		管内市町村と連携し、更なる展開を図る。									

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
商工 労政 担当	15	元気な起業家応援事業	・起業・創業に必要な経費の支援(補助率2/3) ・空き店舗家賃補助(補助率10/10) *上記2項目の併用を可とし、合わせて200万円の限度額	H29年度 実績額	2,000,000			2,000,000			指標①	起業・創業支援件数	2	件	H31.3	1	3	指標値を達成し 事業効果があつた
												指標②						
				H30年度 実績額	3,885,517			3,700,000		185,517	指標③							
				H31年度 予算額	5,350,000			5,300,000		50,000	指標①	起業・創業支援件数	2	件	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価		⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について				
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		起業資金の支援により、起業への後押しが出来、新規業種を含め3件の実績となった。	起業家支援事業補助金 3,885,517円	不動産業(1件) 飲食業(1件) 保険業(1件)					事業の継続	雇用の創出により地域経済の活性化が図られるため。								

美幌版総合戦略に係る平成30年度実績及び平成31年度予算・指標設定

基本戦略2

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
政策 担当	1	移住促進事業	①移住促進のPR:首都圏で開催される移住促進イベントの参加経費 ②「ちょっと暮らし」のための施設整備:空き家となっている教員住宅の改修及び必要な備品等の整備	H29年度 実績額	868,613				306,900	561,713	指標①	移住体験者	8	組	H31.3	13	12	指標値を達成し事業効果があった
											指標②							
				H30年度 実績額	779,481				226,050	553,431	指標③							
				H31年度 予算額	1,004,000				203,000	801,000	指標①	移住体験者	10	組	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
		平成30年1月に平成30年4月以降の申込み受付を行い、抽選の結果5組の体験者が決まり、その後もHP等による情報提供を行い、最終的に12組の体験者に繋がった。 また、12組のうち4組は12月以降の冬期間に移住体験を行っている。 なお、体験者の内1名は、二地域居住に向けて町内に住宅を建築中。	報償費:17,207円 移住フェア参加等旅費:194,820円 消耗品費:31,702円 需用費(光熱水・燃料):156,820円 役務費(通信・手数料):69,192円 委託料:84,420円 使用料:25,320円 負担金(移住関係協議会費、移住フェア参加費):200,000円	【移住体験者】 東京都7組 神奈川県1組 愛知県1組 広島県1組 長崎県1組 沖縄県1組							事業の継続	地域おこし協力隊の新たな視点により、移住体験住宅の魅力を一層高めて、更なる交流人口の増加を目指し、一方で仕事とマッチングさせた本気の移住者の獲得を目指す。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
				後年度	予算額														
政策 担当	2	移住・二地域居住・就労トータルサポート 事業 【H30～掲載】	地方での暮らしや生き方を求めている人に対し、それぞれの 求めるライフスタイルに合った本町での暮らし・就労などを提 供することで、移住者や就労人口の増加を目指す。	H29年度 実績額							指標①	移住(就労)者数	2	人	R2.3	-	0	指標値を達成でき ず事業効果はな かった	
				H30年度 実績額	0						指標②								
				H31年度 予算額	0						指標③								
									指標①	移住(就労)者数	2	人	R2.3						
⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います				⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願 います				⑧ 指標値に対するH30実績値の内容				⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について			
								事業の評価				外部有識者からの意見				今後の方針		今後の方針の理由	
町単独での実施は難しいことから、本町が加入している全道広域から組織される「北海道田舎活性化協議 会」の構成自治体との連携により、地方創生推進交付金を活用することで進めていたが、本交付金の採択は 厳しく、また、自治体間の調整が付かなかったため、実施することができなかった。												事業の継続				「北海道田舎活性化協議会」における本事業の取り扱い は未定であるが、継続して進める必要があるため。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値		⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
政策 担当	3	関係人口創出事業 【H30～掲載】	本町に多様に関わる者を「関係人口」と位置づけ、本町に居住しなくても地域と継続的なつながりを持つための機会・きっかけを創出することで、交流人口の増加及び地域活性化を目指す。	H29年度 実績額							指標①	(仮称)ふるさとサポーターク ラブ登録人数	60	人	R2.3	-	9	指標値を達成し事 業効果があった
													指標②					
				H30年度 実績額	22,440					22,440	指標③							
				H31年度 予算額	93,000					93,000	指標①	(仮称)ふるさとサポーターク ラブ登録人数	60	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願 います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
本事業のモデル事業として、首都圏在住の方を対象とした「ふるさとサポーター認定イベントin美幌町」を開 催し、参加者には美幌高校でのアイスクリーム作り体験等や、移住者・若者団体との交流により、地域の魅力 を感じていただくことができ、今後も本町とのつながりを継続できると考えられる。			全国連携講演会等出席旅費:17,040円 報償費:5,400円			【美幌町ふるさとサポーター認定者数】 北海道1名 東京都7名 神奈川県1名							事業の継続	「美幌町ふるさとサポーターズ倶楽部」制度を創設 し、サポーター登録数の増加を図り、継続的なつなが りを持ちながら、美幌町の情報発信等を行っていただ き、知名度の向上や地域の活性化を図る。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④	⑤				
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標			指標値	単位	目標年月	本事業前の実績値	H29実績値	H30実績値	事業効果
政策 担当	4	空き家対策	平成29年度に空き家・空き店舗実態調査を行い、その結果を基に平成30年度以降検討を行う。	H29年度 実績額	0							指標①	北海道空き家バンク登録棟数	5	棟	H31.3		-	0	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
												指標②								
				H30年度 実績額	2,493,447						2,493,447	指標③								
				H31年度 予算額	410,000							指標①	北海道空き家バンク登録棟数	1	棟	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧			⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価		外部有識者からの意見			今後の方針		今後の方針の理由				
平成29年度に空き家実態調査を行い、その結果の基、美幌町空家等対策計画を策定したことにより、今後、空家等を利活用した移住定住につながる施策の検討を行う段階へと進んだ。			報酬費:145,600円 共済費:309,969円 臨時職員賃金:1,880,590円 北海道空き家等対策連絡会議等出席旅費:42,500円 消耗品費:21,350円 委託料:93,438円										事業の継続		美幌町空家等対策計画に基づき、空家等の利活用を進めていくため。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値		⑤ 本事業終了後における実績値	
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
政策 担当	5	政府関係機関の誘致	国が掲げる総合戦略の一つで、東京に集中している官公庁を地方へ移転させ、東京一極集中を是正し、リスクの分散を進めることを目的にしたもの。美幌町への誘致を推進する。	H29年度 実績額	0						指標①	政府関係機関誘致数	1	機関	R2.3	0	0	指標値を達成できず事業効果はなかった
				H30年度 実績額	0						指標②							
				H31年度 実績額	0						指標③							

美幌版総合戦略に係る平成30年度実績及び平成31年度予算・指標設定

基本戦略3

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
				後年度	予算額														
戸籍 年金 担当	1	ピンクの婚姻届事業	婚姻届を出すカップルに、ちょっとかわいいピンク色の婚姻届を美幌町産材で作られた木製フォルダに入れてお渡しする。また、サービスで写真撮影を行い、町産材利用促進や美幌町を応援してもらうことを目的としている。	H29年度 実績額	324,000					324,000	指標①	婚姻届出数	100	件	H31.3	69	63	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
				H30年度 実績額	324,000							指標②							
				H31年度 予算額	440,000						440,000	指標③							
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について							
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
		婚姻数の減少のため指標値を下回っているが、対象者に好評を得ており、町産材利用促進が図られているため、効果は高い。	報償費 324,000円	婚姻届出数 63件 (美幌町産FSC森林認証材婚姻届フォルダ 63個贈呈)								事業の継続	町産材利用促進が図られているため、PR等を行い、今後も継続する。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)				本事業前の実績値	本事業終了後における実績値		
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
母子保健担当	2	妊婦一般健康診査等交通費補助事業	妊産婦の心身の健康の保持及び家庭の経済的負担の軽減を目的に、妊娠に係る健康診査及び出産のため町外の医療機関に通院する交通費を助成(1,080円/1回、15回を上限)	H29年度実績額	1,452,600		432,000			1,020,600	指標①	妊婦一般健康診査等交通費補助人数	102	人	H31.3	116	92	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度実績額	1,071,360		333,000			738,360	指標③							
				H31年度予算額	1,545,000		482,544			1,062,456	指標①	妊婦一般健康診査等交通費補助人数	80	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
出産に係る費用を助成することにより、妊産婦家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援が図られた。 (実績値が指標値を下回った理由) 出生数の減少による。			妊婦一般健康診査等交通費補助金: 1,071,360円			申請者数 92人 補助対象回数 健康診査 915回／ 出産準備 77回						事業内容を見直し発展させる			健康診査及び出産のための交通費に加え、産後2週間健診及び1ヶ月健診時の交通費も助成対象とし、子育て世帯の経済的負担を軽減させる。 また、引き続き補助対象者に対し制度の周知をすることで、今までどおり対象者全てが申請するよう事業を進めていく。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
母子保健担当	3	産後1ヶ月健康診査補助事業	母子の心身の健康の保持及び対象となる家庭の経済的負担の軽減のため、産後1ヶ月健康診査を受診するための費用及び受診に要する交通費を助成(5,000円)	H29年度実績額	525,000		31,320			493,680	指標①	産後1箇月健康診査補助人数	96	人	H31.3	105	94	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
										指標②								
										指標③								
										指標①	-							
⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います				⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
										事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由				
産後1ヶ月の健診に係る費用を助成することにより、対象家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援が図られた。 (実績値が指標値を下回った理由) 出生数が減少したため。				産後1ヶ月健康診査補助金:470,000円			申請者数 94人 (補助対象回数 94回)							予定通り事業終了	H31年度より、1ヶ月健診の受診費用は町が受診した病院へ直接支払うこととし、交通費については妊婦一般健康診査等交通費補助事業において支払うことで、引き続き子育て世帯の経済的負担を軽減していく。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
母子保健担当	4	特定不妊治療費補助事業【H30～掲載】	医療保険適用外の特定不妊治療に要する費用を助成することにより、不妊治療を受ける夫婦の経済的負担の軽減と少子化対策の推進を図る。	H29年度実績額							指標①	特定不妊治療費補助申請件数	15	件	H31.3	-	17	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度実績額	1,610,529				1,265,000	345,529	指標③							
				H31年度予算額	2,250,000				1,200,000	1,050,000	指標①	特定不妊治療費補助申請件数	15	件	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
本補助の対象となる治療は医療保険適用外のため費用も高額となり、治療を受ける夫婦の経済的な負担が大きい。道の補助に上乗せし町が補助することで、負担感が大幅に軽減され、不妊治療を受けやすい環境を整えることができた。			特定不妊治療費補助金:1,610,529円			補助実人数 8名、補助件数 17件 (1件当たり 94,737円)						事業の継続		子どもを望む夫婦が不妊治療を選択しやすくなる本事業を継続して実施することで、少子化対策の推進を図る。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
				後年度	予算額														
母子保健担当	5	乳幼児等予防接種扶助事業【H30～掲載】	里帰り出産中に受けた予防接種費用を扶助することで、乳幼児等の健康の保持及び家庭の経済的負担の軽減を図る。	H29年度実績額							指標①	扶助件数	11	件	H31.3	-	14	指標値を達成し 事業効果があった	
				H30年度実績額	162,226					162,226	指標③								
				H31年度予算額	744,000					744,000	指標①	扶助件数	14	件	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います		⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について								
								事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由							
		里帰り出産でも町内在住者と同様の費用負担となり予防接種を受けやすくすることで、乳幼児等の感染症予防および子育て世帯の経済的負担を軽減することができた。	乳幼児予防接種扶助費:162,226円	扶助実施数 14名						事業の継続	年間で一定数いる里帰り出産者の負担を引き続き軽減していく。								

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				H29年度 実績額							指標①	常勤医師数	12	人	H31.3	10	10	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
							指標②											
H30年度 実績額	1,026,000				684,000	342,000	指標③											
H31年度 予算額	1,464,000					1,464,000	指標①	常勤医師数	12	人	R2.3							
国保 病院	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧	⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
								事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
	平成29年度に産婦人科、眼科の常勤医師の招聘はできなかったが、平成30年4月に1名の招聘ができた。 ＜求めている常勤医師＞ 産婦人科常勤医師:1名 眼科常勤医師:1名			医師募集サイト広告掲載料 1,026,000円			＜常勤医師＞ 内科常勤医師:2名 循環器内科常勤医師:1名 呼吸器内科常勤医師:1名 総合診療科常勤医師:1名 整形外科常勤医師:1名 泌尿器科常勤医師:1名 小児科常勤医師:1名 外科常勤医師:1名 産婦人科常勤医師:1名					事業の継続	婦人科は平成30年4月から再開することとなったが、平成31年3月で1名退職した外科及び眼科の常勤化については町民のニーズがあるため、引き続き医師の招聘に努める。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				H29年度 実績額						18,377,400	指標①	保育料利用負担軽減者数	60	名	H31.3	57	54	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
H30年度 実績額	17,062,400					17,062,400	指標②											
H31年度 予算額	21,262,000					21,262,000	指標③											
児童支援担当	7	子育て支援対策事業	0歳児から2歳児までの民間保育所利用者に対し、保育料(町立保育所との差額分)を支援。また、平成28年度か多子軽減を実施して、平成29年度には拡大し、更なる支援を行う。															
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
										事業の評価		外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由			
	民間保育所の受け入れ人数が抑えられたことにより指標値を下回ったものの、低年齢児(0～2歳児)及び多子世帯の保護者に対し、保育料の負担軽減が図られ、子育て支援対策が充実した。			民間保育園利用者補助金 17,062,400円			保護者54名(54世帯)							事業の継続	町内全ての保育所においても多子軽減を実施しているが、今後も継続して実施し子育て支援を進める。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
児童 支援 担当	8	地域子育て支援センター事業	乳幼児の保育に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うとともに、子育てサークルへの支援等を行う。	H29年度 実績額	4,167,755	1,274,000	1,292,000			1,601,755	指標①	利用者延べ人数	8,000	名	H31.3	8,347	8,146	指標値を達成し事業効果があった
											指標②							
				H30年度 実績額	4,212,270	1,404,000	1,320,000			1,488,270	指標③							
				H31年度 予算額	4,763,000	1,445,000	1,445,000			1,873,000	指標①	利用者延べ人数	8,000	名	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います				⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について				
										事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由			
人口減少に伴い利用実績は昨年より下回ったが、近年の一時預かりに対するニーズの増加に対応しており、センター自由開放や行事など昨年の実績に近い利用人数であったため、地域の子育て支援センターとしての役割を果たした。			臨時職員賃金 2,944,782円 旅 費 32,000円 需用費 399,218円 償還金 106,000円 共済費 469,058円 役務費 109,751円 報償費 98,650円 委託料 19,047円 旅 費 32,000円 備品購入費 33,264円 負担金 500円				延べ 8,146名 (親 3,077名 子 5,069名)						事業の継続	子育て支援には必要な施設であり、今後もリピーターが増えるような魅力ある行事等を考える。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
児童支援担当	9	一時預かり事業	保護者や家族の病気、不定期に仕事をするなど、家庭での保育が困難になったときに、満1歳児以上就学前までの子を一時的に預かる。	H29年度 実績額	4,646,462				1,104,300	3,542,162	指標①	一時預かり利用日数	450	日	H31.3	566	779	指標値を達成し事業効果があった
										指標②								
	H30年度 実績額	6,102,510				1,518,000	4,584,510	指標③										
	H31年度 予算額	5,697,000				1,078,000	4,619,000	指標①	一時預かり利用日数	700	日	R2.3						
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
								事業の評価			外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由				
保護者の就労形態の多様化に伴う一時的な保育又は保護者の疾病や家族の疾病による付き添い等緊急時の一時的な保育のため、一時預かり事業を行うことにより、児童の福祉の向上が図られた。			臨時職員賃金 6,102,510円			利用児 ・3歳児未満 779日							事業の継続	子育て支援には必要な事業であり、緊急的なセーフティネットとしての役割を担い続ける。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
児童支援担当	10	放課後児童健全育成事業	保護者が昼間就労・留守などにより保育が出来ない小学生の児童を対象に、適正な遊び場及び生活の場を与え、児童の健全育成と福祉増進を図る。	H29年度実績額	31,075,754	5,822,000	5,814,000		6,442,800	12,996,954	指標①	学童保育所利用者数	140	名	H31.3	160	161	指標値を達成し事業効果があった
		H30年度実績額	31,413,913	5,959,000	5,959,000		6,790,800	12,705,113	指標③									
		H31年度予算額	35,693,000	5,959,000	5,959,000		7,056,000	16,719,000	指標①	学童保育所利用者数	150	名	R2.3					
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
										事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由			
		保護者が昼間就労・留守などにより保育が出来ない小学生の児童の健全育成と福祉増進が図られた。	臨時・嘱託賃金 25,235,820円 共済費 3,690,099円 需用費 2,048,657円 役務費 291,260円 委託料 106,233円 旅費 7,500円 備品購入費 34,344円			美幌小学校 64名 東陽小学校 66名 旭小学校 31名							事業内容を見直し発展させる	昼間働く保護者が増えている傾向であり、児童の健全な育成のために必要な事業である。また、アンケートの結果により学年拡大実施の要望はあるため、実施に向けて協議・検討中である。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
商 工 労 政 担 当	11	子育て世帯応援事業	①高校生以下の子どもを養育している方 プレミアム率55%の商品券5,500円(スマッピーカードチャージ額10,000円)×743セット ②18歳以上30歳未満の若者 プレミアム率55%の商品券5,500円(スマッピーカードチャージ額10,000円)×157セット ↓ 高校生以下の子どもを養育している世帯に対し、プレミアム率50%の商品券を発行。(スマッピーカードチャージ額10,000円で5,000円分の商品券)	H29年度 実績額	2,995,000			2,995,000			指標①	商品券利用率	95	%	H31.3	99.8	99.9	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度 実績額	2,998,000			2,998,000			指標③							
				H31年度 予算額	3,000,000			3,000,000			指標①	商品券利用率	95	%	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		町内商店の利用を促すため、プレミアム商品券を発行。 99.9%の利用率からも十分な消費喚起及び子育て世帯等への支援が図られた。	子育て世帯応援事業補助金：2,998,000円			商品券利用率 99.9%							事業の継続	子育て世帯への支援により、経済的負担の軽減が図られるとともに、商店街の活性化に繋がりがり、商工業者の所得向上が図られた。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
成人保健担当	12	子育て世帯禁煙サポート補助事業	禁煙の取組を促し、たばこの害から治療者本人及び同居する子どもの健康を守るため、子育て世帯の喫煙者に対し、禁煙治療に要する費用の一部を補助	H29年度 実績額	11,200					11,200	指標①	補助対象者数	7	人	H31.3	2	3	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
										指標②								
				H30年度 実績額	20,400					20,400	指標③							
				H31年度 予算額	200,000					200,000	指標①	補助対象者数	3	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		本事業を禁煙へのきっかけとして、禁煙治療者に対し継続的な連絡を行い、治療者に禁煙への意識を維持してもらうことで成功へと導いており、禁煙成功者からの評価は高い。 (実績値が指標値を下回った理由) ・補助対象となる若い世代は健康に対する関心が低く、習慣的な喫煙者の多くは依存症であり、禁煙の動機付けが難しい。禁煙促進には地域全体として禁煙意識の醸成が必要であり、長期的な取り組みが必要。	子育て世代禁煙サポート補助金 20,400円	補助者数3名 (4,700円×1名、7,600円×1名、8,100円×1名)							事業の継続	たばこの害から治療者本人と特に健康上の配慮を要する高校生までの子供を守り、健康推進を図る。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度 後年度	実績額 予算額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				H29年度 実績額	23,772,303		9,425,000		10,132	14,337,171	指標①	乳幼児医療費受給者数 (医療証の受給者数)	2,035	人	H31.3	827	1,811	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
H30年度 実績額	31,485,825		8,031,000		131,320	23,323,505	指標②											
H31年度 予算額	45,600,000		9,807,000		79,000	35,714,000	指標③											
							指標①	子ども医療費受給者数 (医療証の受給者数)	1,944	人	R2.3							
民生担当	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
	少子化や転出の増加傾向により、指標値を下回ったものの、対象世帯及び転入世帯に対して医療証を配布して制度周知に努めた結果、経済的支援が図られた。			社会保険料 9,396円 賃金 609,000円 消耗品費 33,936円 印刷製本費 64,260円 手数料 814,520円 業務等委託料 13,273円 扶助費 29,941,440円			小学生以下 1,438人 中学生 373人					事業の継続	子どもの保健福祉向上及び子育て世帯の経済的支援を図る必要があるため。					

美幌版総合戦略に係る平成30年度実績及び平成31年度予算・指標設定

基本戦略4

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
商工 労政 担当	1	空き店舗活用事業	空き店舗を活用して新規企業・チャレンジショップ支援などを行い、街中に賑わいや活力を創出する。(空き店舗の月額家賃(上限8万円)の2分の1を、町と商工会議所が1年間補助)	H29年度 実績額	337,500					337,500	指標①	空き店舗活用件数	2	件	H31.3	3	2	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度 実績額	52,500					52,500	指標③							
				H31年度 予算額	480,000					480,000	指標①	空き店舗活用件数	2	件	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について		
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
当該制度により、中心市街地の空き店舗の減少が図られた。			空き店舗活用事業補助金 52,500円			飲食業(1件) 販売業(1件)						事業の継続			空き店舗の解消を促進することにより商店街の活性化が図られるため。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
商 工 労 政 担 当	2	消費喚起プレミアム商品券発行事業	プレミアム商品券を発行することにより地域の消費喚起を図る。 一般向けとして、プレミアム率30%の商品券を発行。(スマッピーカードチャージ額10,000円で3,000円分の商品券)	H29年度 実績額	5,397,500			5,305,000		92,500	指標①	商品券利用率	95	%	H31.3	99.9	99.9	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度 実績額	5,398,000			5,302,000		96,000	指標③							
				H31年度 予算額	5,400,000			5,400,000			指標①	商品券利用率	95	%	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について				
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
町内商店の利用を促すため、プレミアム商品券を発行。 99.9%の利用率からも十分な消費喚起が図られた。			プレミアム商品券発行補助金 5,398,000円			商品券利用率 99.9%							事業の継続	商店街の活性化により、商工業者の所得向上が図られるため。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
指導 担当	3	住宅リフォーム促進事業	住宅の改修に要する費用の一部を助成することにより、町民が安心して暮らすための居住環境の整備、環境負荷の低減及び地域経済の活性化を図る。 (50万円以上の改修工事に対して、費用の20%以内(限度額50万円)を助成)	H29年度 実績額	29,795,000			29,700,000		95,000	指標①	制度利用件数	130	件	H31.3	94	101	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
				H30年度 実績額	33,406,000			26,900,000		6,506,000	指標③							
				H31年度 予算額	47,190,000			47,100,000		90,000	指標①	制度利用件数	130	件	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
						指標値に対するH30実績値の内容			事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
平成23年度から実施した当該事業は、平成30年度までの8年間で、1,065件、約25億6千万円の工事契約高を積み上げており、住環境の整備並びに地域経済の活性化に寄与したものと考えている。 なお、当面100～150件/年程度の一定の需要を見込んでおり、その幅の中で年度により実績値にバラツキがあることはやむを得ないと判断している。			補助金:33,406,000円			制度利用件数 101件							事業の継続	本事業により、居住環境の整備が促進されるため。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
交通安全担当	4	ワンコインバス、乗合タクシー等利用促進事業	地域住民の足となっている路線バス、ワンコインバス及び町が運行する混乗スクールバス等の維持確保や利便性向上に努めながら、公共交通の確保・維持を推進する。	H29年度実績額	23,514,180					23,514,180	指標①	利用者数(H29.10～H30.9)	33,300	人	H30.9	33,294	33,760	指標値を達成し事業効果があった
											指標②							
				H30年度実績額	25,050,130					25,050,130	指標③							
				H31年度予算額	26,275,000					26,275,000	指標①	利用者数(H30.10～H31.9)	34,000	人	H31.9			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
							事業の評価			外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
	生徒数の減少により美幌高校線の利用者は大幅に減少したが、市内循環線利用者の増加により町内運行路線全体では微増となった。 高齢者の増加により、地域公共交通の役割はさらに重要になっており、今後も利便性の向上や利用促進を図りながら公共交通の確保・維持を推進する必要がある。			平成29年度 生活バス路線運行維持費補助金 23,514,180円 ・阿寒バス: 市内循環線 9,219,000円 ・網走バス: 網走－美幌線 4,562,000円 ・北見バス: 北見－美幌津別線等 8,382,000円 ・北交ハイヤー: 乗合タクシー 1,351,180円			利用者数(地域内フィーダー系統) ・市内循環線 28,840人 ・美幌校高線 2,695人 ・乗合タクシー 1,759人 計 33,294人 利用者数(地域間幹線系統等) ・網走－美幌線 17,943人 ・北見－美幌津別線等 121,479人 計 139,422人							事業の継続	利便性の向上と利用促進を図り、公共交通の維持確保を推進する。			
				平成30年度 生活バス路線運行維持費補助金 25,050,130円 ・阿寒バス: 市内循環線 10,054,000円 ・網走バス: 網走－美幌線 4,370,000円 ・北見バス: 北見－美幌津別線等 9,379,000円 ・北交ハイヤー: 乗合タクシー 1,247,130円			利用者数(地域内フィーダー系統) ・市内循環線 29,841人 ・美幌校高線 2,183人 ・乗合タクシー 1,736人 計 33,760人 利用者数(地域間幹線系統等) ・網走－美幌線 17,205人 ・北見－美幌津別線等 120,082人 計 137,287人											

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値	
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
住民活動担当	5	美幌町まちづくり活動奨励事業	住民自らの知恵と行動により、まちづくり諸活動を奨励する。また、自治会や団体・組織を対象に地域の公共的課題を自主的かつ継続的に取り組む事業に支援し、その活動継続と発展を図る。	H29年度実績額	902,000				902,000		指標①	事業の利用件数	3	件	H31.3	1	0	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度実績額	0						指標③							
				H31年度予算額	2,000,000				2,000,000		指標①	事業の利用件数	3	件	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います				⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
										事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由			
		町民団体等が主体の事業に対して補助する提案事業型の補助金で、町民主体のまちづくりを期待するものだが、指標値を下回った理由に、ソフト事業が2件、ハード事業が1件を見込んでいたが申請が無かったため指標値の未達成となった。	補助金:0円	事業実施なし									事業の継続	町民による自発的なまちづくり活動はこれからも重要であり、この活動に対する町の補助が必要であるため、今後も継続する。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値				
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
政策 担当	6	美幌町まちづくり参画プロジェクト	地域の学校を活用し、学生ならではの意見・アイデアによるまちづくり活動に支援することで、地域の未来を考え、まちづくりへの意識向上を図り、地元に残る若しくは帰ってくる学生を育成する。	H29年度 実績額	246,588					246,588	指標①	プロジェクト件数	2	件	H31.3	1	1	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度 実績額	300,000					300,000	指標③							
				H31年度 予算額	1,000,000					1,000,000	指標①	プロジェクト件数	2	件	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
							事業の評価		外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
	平成30年度より、美幌高校の幅広い班及び普通科の生徒を中心とした「美幌の魅力伝え隊実行委員会」として、町産の野菜等を原材料とした「産業・ものづくり」に取り組み、町内の小中学生と「食育」を考えた交流会を実施し、地域の魅力を発信できた。 また、町内飲食店との連携により、魅力あるメニュー表を作製し、町内飲食店の活性化推進を図ることができた。			補助金:300,000円			【食育等】 ・東陽小学校4年生、旭小学校6年生、美幌中学校・北中学校3年生を対象とした食育活動 ・地元食材を生かしたオリジナル料理の開発 ・上記オリジナル料理の商品化、販売活動 【魅力あるメニュー表の作製】 ・そばのかね久						事業の継続	学生を主体とした活動を継続すると共に、学生の更なるまちづくり活動を支援するため。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
政策 担当	7	地域おこし協力隊事業	都市地域から「地域おこし協力隊員」を募集し、一定期間、地域に居住して、地域のさまざまな課題について協力活動をしてもらい、地域への定住・定着を図る。	H29年度 実績額	1,517,000					1,517,000	指標①	地域協力活動案件数	2	件	H31.3	2	2	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②	協力隊員数	2	人	H31.3	1	1	
				H30年度 実績額	5,133,610					5,133,610	指標③							
				H31年度 予算額	12,094,000						指標①	地域協力活動案件数	1	件	R2.3			
								指標②	協力隊員数	1	人	R2.3						
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
地域おこし協力隊の地域活動は、移住・定住分野と峠の湯に関する案件とした。採用は、適任者がおらず移住・定住分野で1名のみの採用となったが、町2人目の協力隊を採用できた。			共済費:344,962円 臨時職員賃金:2,249,124円 研修等旅費:264,560円 消耗品費:236,513円 需用費(燃料費、印刷製本費):60,413円 需用費:19,440円 委託料:1,400,238円 使用料:558,360円			【地域協力活動案件】 ○移住・定住～移住・定住に関する情報発信や、移住・定住に繋がる企画の考案・実施等 ○峠の湯～「峠の湯びほろ」を拠点とした、観光客を市街地へ呼び込む事業の考案及び観光振興等 【面接者】 長崎県1名、大阪府1名 計2名 【内定者】 移住・定住分野 1名(長崎県)						事業の継続	新たな地域協力活動を掘り起こし、地域の活性化及び人材育成を図る。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
政策 担当	8	人材バンク事業	美幌町に縁があり、文化、芸術、スポーツ、経済界などで特技や資格を持った人材をリスト化し、まちでの行事や学習などで活躍してもらう。	H29年度 実績額	-						指標①	人材バンク登録者数	50	人	H31.3	-	(52)	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度 実績額	-						指標③							
				H31年度 予算額	-						指標①	人材バンク登録者数	50	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
							事業の評価		外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
		人材バンク登録者候補として50数名を選定したが、名簿登録の交渉には至らず、名簿完成には至らなかった。ただし、名簿完成に向けて一定程度の整理はできた。		名簿登録予定者数 52名								事業の継続	人材バンク登録名簿がが完成次第、バンク登録の人材を活かしたまちづくりを推進する。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
教委・総務担当	9	ICT教育環境整備事業	町内の小中学校でICT(情報通信技術)を活用し、確かな学力を育成する教育を推進します。	H29年度実績額	16,994,664					16,995,000	指標①	国の整備指針に基づくICT機器必要数	5	校	H31.3	5	5	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度実績額	17,519,000	2,291,000				15,228,000	指標③							
				H31年度予算額	13,130,000					13,130,000	指標①	国の整備指針に基づくICT機器必要数	5	校	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について			
									事業の評価		外部有識者からの意見		今後の方針		今後の方針の理由			
		国の整備目標に準じてタブレットPC、実物投影機等のICT機器を導入した。授業で活用されており、児童への教育効果が高まった。	小学校修繕料: 2,710,800円 小学校庁用備品: 11,133,600円 中学校徴用備品: 1,477,400円 中学校機械器具: 2,197,200円	美幌小学校:iPad4台、無線LAN整備 東陽小学校:PC36台、iPad4台、無線LAN整備 旭小学校:iPad2台 美幌中学校:液晶テレビ7台、iPad4台 北中学校:iPad4台						事業の継続	整備計画に基づきICT機器を充足し、児童生徒の学力向上を図る。							

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
学校 教育 担当	10	少人数学級推進事業	きめ細かな学習指導環境を整えることを目的に、各小学校の全学年で35人学級を実現すべく、期限付教諭を任用する。	H29年度実績額	0					0	指標①	町費負担教員	1	人	H31.3	0	0	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
											指標②							
				H30年度実績額	0						指標③							
				H31年度予算額	5,726,000			5,700,000		26,000	指標①	町費負担教員	1	人	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由				
		平成29年度同様、平成30年度においても町費負担教員を配置せず、すべての小学校の全学年で35人学級が可能となったことにより、一人一人の児童にきめ細かな指導を行うことができた。											事業の継続	今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るため、教育環境の整備を推進していく。				

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
				後年度	予算額													
学校 教育 担当	11	学力向上支援事業	一人ひとりに応じたきめ細かな学習指導を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図ることを目的に、小学校教育支援員を配置し、習熟度別学習を実施する。	H29年度 実績額	4,891,892					4,891,892	指標①	教育支援員	3	人	H31.3	3	3	指標値を達成し事業効果があった
				H30年度 実績額	5,245,017					5,245,017	指標②							
				H31年度 予算額	5,384,000					5,384,000	指標③							
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由					
		学習内容を確実に身に付けさせることができるよう、教育支援員を配置することにより、習熟度別少人数指導等のきめ細かな学習指導を行い、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が図られた。	社会保険料:42,430円 人夫賃等:5,155,091円 健康診断委託料:47,496円			配属先 美幌小学校 1名 東陽小学校 1名 旭小学校 1名						事業の継続	今後も未来を担う子どもたちの学力向上を図るため、教育環境の整備を推進していく。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)							③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)				④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
				後年度	予算額														
学校 教育 担当	12	博物館との連携事業	博物館の学芸員と教諭との連携により、美幌町の自然体験や観察会、工作教室を実施し、地域への郷土心の養成と特色ある授業を実施する。	H29年度 実績額	60,650					60,650	指標①	連携事業実施校	5	校	H31.3	5	5	指標値を達成し事業効果があった	
				H30年度 実績額	124,295					124,295	指標③								
				H31年度 予算額	101,867					101,867	指標①	連携事業実施校	5	校	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について							
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
		小中学校と博物館との連携による体験学習により、地域資源を活用した学校教育の充実が図られた。	報償費:124,295円			小中学校 (美小・東陽小・旭小・美中・北中)5校						事業の継続	今後も地域資源を活用した博物館との連携事業を推進していく。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	指標		指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
				後年度	予算額														
学校 教育 担当	13	学生ボランティア学習サポート事業	夏季・冬季の長期休暇中の小中学生に近隣の学生が勉強を教え、児童・生徒の学力向上を図る。	H29年度 実績額	12,655					12,655	指標①	学習サポート事業参加人数	2,000	人	H31.3	1,965	1,882	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)	
				H30年度 実績額	18,860					18,860	指標③								
				H31年度 予算額	235,500					235,500	指標①	学習サポート事業参加人数	2,000	人	R2.3				
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧		⑨ 外部有識者からの評価				⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由					
平成30年度は、夏季休業中において3名、冬期休業中において1名の学生ボランティアによる派遣が可能となり、学習サポートを行うことができた。年々児童生徒数が減少傾向にある中、学習サポート参加人数も減少傾向にあり、指標値を下回る結果となったが、継続した学習習慣の定着が図られ、事業効果はあったものとする。			報償費:12,960円 食糧費:3,500円 保険料:2,400円			美幌小学校 453人 東陽小学校 217人 旭小学校 260人 美幌中学校 204人 北中学校 748人							事業の継続	保護者等とも連携のもと、長期休業中のサポートや家庭学習に対する意識を啓発し、今後も基礎学力の向上と学習習慣の定着を図るため、学習サポート事業を継続していく。					

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
住民活動担当	14	国際交流事業	平成4年からニュージーランド・ケンブリッジ地区と友好姉妹都市の関係が継続され、両地域における人材派遣として「高校生短期交換留学」を実施する。 さらに隔年でケンブリッジ高校から短期留学の受け入れも行う。	H29年度実績額	702,426				702,426		指標①	留学生(美幌高校)の人数	2	人	H31.3	1	2	指標値を達成し事業効果があった
											指標②							
				H30年度実績額	424,951				424,951		指標③							
				H31年度予算額	966,000				966,000		指標①	留学生(美幌高校)の人数	2	人	R2.3			
				⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について		
										事業の評価	外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由				
		美幌高校からケンブリッジ高校へ短期留学を2名派遣した。ケンブリッジ高校への留学実施で、美幌と友好姉妹都市である地域との人的交流が継続でき、生徒自身においても将来を考える非常に良い機会となった。	国際交流事業消耗品 4,951円 (留学レポート用ファイル等) 高校生短期交換留学事業負担金 420,000円 (渡航費用・・・2名分、授業料は当該年度ケンブリッジ高校負担)	平成30年7月20日 出発 ～ 8月10日 帰町 ケンブリッジ高校に美幌高校普通科2年の生徒2名(男女各1名)が短期留学を実施。授業形態や生徒の積極性の違いを体験。この経験が帰国してからの生徒自身の積極性を意識するきっかけとなった。					事業の継続	国際社会に対応する人員の育成は今後も必要であるため。								

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値	
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値	本事業終了後における実績値		
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果
教委・総務担当	15	美幌高等学校教育支援事業【H30～掲載】	美幌高校寄宿舎に入寮している生徒の生活支援と、今後道内外から入学する生徒への寮確保及び生徒募集のPR活動を行うための経費を支援するため、教育後援会に補助を行う。	H29年度実績額						指標①	入寮者数	6	人	H30.4		7	指標値を達成し事業効果があった
											指標②						
				H30年度実績額	2,379,140					2,379,140	指標③						
				H31年度予算額	4,654,000					4,654,000	指標①	入寮者数	6	人	H31.4		
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について				
										事業の評価	外部有識者からの意見			今後の方針	今後の方針の理由		
寄宿舎(報徳寮)を維持するため、補助金を活用することにより、入寮者の生活の支援が可能となったほか、今後入学してくる入寮希望者の確保につながった。 また、生徒募集推進事業によって広報活動を行った結果、寮の存在が大きく、管外からの入寮希望者が増えることによって美幌高校への入学者数の減少に歯止めにつながった。			寄宿舎維持運営補助:2,524,683円 生徒募集推進補助:214,457円			入寮者数:7名							事業内容を見直し発展させる	美幌高校教育振興対策協議会において、教育内容を充実させるための振興対策及び、魅力ある高校の在り方について協議し、事業内容を見直す。			

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)					③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値			
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
防災担当	16	防災対策事業	美幌町の地域に関わる防災に関し、災害予防を実施するにあたり、防災資機材を計画的に整備する。また、町民の防災意識の向上を図ることを目的に、地域と連携した避難行動訓練や図上訓練を実施、家庭用備蓄の普及啓発など、防災体制の強化を図る	H29年度実績額	13,743,048					13,743,048	指標①	防災訓練参加者数	100	人	H31.3	189	35	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
				H30年度実績額	16,845,802		3,834,000	1,300,000		11,711,802	指標②							
				H31年度予算額	39,634,000		314,000	27,800,000		11,520,000	指標③							
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容			⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について					
				防災WEBマップ作成委託料 993,600円 Jアラート受信機設置設置委託料 1,323,583円 防災無線保守点検 421,200円 避難所等AED借上料 666,792円 戸別配布用非常用持出品 859,140円 防災資機材保管倉庫設置委託料 646,380円			防災訓練参加者数 美幸地区 中止 図上訓練参加者数 35名			事業の評価			外部有識者からの意見		今後の方針	今後の方針の理由		
防災訓練については、台風の接近が予想されたため中止となり指標値を下回ることとなったが、図上訓練については引き続き開催し、防災意識の向上が図られた。 防災資機材については、備蓄計画に基づいて計画的に整備し、戸別配布用非常用持出品については全戸配布が終了したことから、転入者を対象に配布することで、防災体制の強化が図られた。									事業の継続			今後も継続して訓練の実施や防災資機材の整備をすすめ、防災・減災対策の強化を図る。						

担当 G	No	① 対象事業の名称	事業内容	② 実績額/予算額(単位:円)						③ 本事業における重要業績評価指標(KPI)					④ 本事業前の実績値	⑤ 本事業終了後における実績値		
				過年度	実績額	国支出金	道支出金	起債	その他	一般財源	本事業における重要業績評価指標(KPI)		本事業前の実績値	本事業終了後における実績値				
				後年度	予算額						指標	指標値	単位	目標年月	H29実績値	H30実績値	事業効果	
防災担当	17	自主防災活動推進事業	各自主防災組織において、災害時に備えた設備を整えるとともに、町民と関係機関が連携した自主防災訓練及び地域避難訓練を実施し、日頃の防災意識の向上と防災体制の強化を図る。また、未設立団体への積極的な働きかけを行い設立、促進を図る。	H29年度実績額	799,864					799,864	指標①	自主防災組織の結成率	73.75	%	R2.3	64.96%	64.49%	指標値を下回ったものの事業効果があった(見込める)
				H30年度実績額	793,804		200,000			593,804	指標③							
				H31年度予算額	250,000					250,000	指標①	自主防災組織の結成率	86.20	%	R2.3			
	⑥ 事業効果(⑤)の評価理由(具体的に) ※実績値が指標値を下回っている事業についてはその理由(原因)等についても記載願います			⑦ 事業費総額(②)の内訳 ※「〇〇委託料:〇〇円」等の内訳を記載願います			⑧ 指標値に対するH30実績値の内容		⑨ 外部有識者からの評価			⑩ 実績値を踏まえた事業の今後について						
									事業の評価		外部有識者からの意見		今後の方針		今後の方針の理由			
自治会連合会を通じて未設立自治会への働きかけなどを行ったが、新規設立には至らず、自主防災組織活動カバー率は指標値を下回ったものの、新たに自主防災資機材及び自主防災資機材等収納倉庫の設置(1件)を行い、地域の防災体制の強化を図ることができた。			自主防災資機材等購入補助金 793,884円 (資機材及び資機材等収納用倉庫)			(組織地域の自治会加入世帯数)÷ (全世帯数) ＝(自主防災組織活動カバー率) 6,147世帯÷9,531世帯＝64.49%							事業の継続	今後も継続した働きかけを行い、防災・減災対策の強化を図る。				